

# 月報 シオン山

2022年3月6日発行 (No378)

\*\*\*\*\*

## 日本バプテストシオン山教会

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

\*\*\*\*\*

### 【月間聖句】

あなたがたのためにわたしが受けている苦難を見て、  
落胆しないでください。この苦難はあなたがたの  
栄光なのです。

(エフェソの信徒への手紙 3章13節)

ワーキングホリディにて、カナダに出立する息子(三男)の  
前途を祈り、送り出す

山下 保

僕には三人の息子(既にみな成人している)がいる。  
長男は、ホーリーランドというストリートファイト系漫画に触発され  
たか、現在はプロへの道も頭の片隅にあるらしいレベルの社会人ボク  
サーというかなり筋肉質で男くさい世界の住人であり、次男はヒュー  
マニズム映画好きが高じて友人の結婚式の動画編集を依頼されるよう  
な、どちらかという地元フクオカ好きのマイルドヤンキー(既に死  
語か?)タイプの情に厚い男気ある世界の住人であるが、この三男は、

趣味が料理好きであるような寧ろ中性的な印象で、先のバレンタインデーには、いつもお世話になっている八幡の祖母にクッキーチョコレート（イチゴ入り）を贈るから、とお菓子作りに着手し、父親である僕にもおすそ分けとして少しばかりシェアしてくれるなど、いやなかなかの女子力の高さに親ながら敬服している。（洗濯物や洗い物があると、夜中でもいつの間にかチャッチャッと片付けてくれる、童話に登場する不思議なこびとのような、同居家族にとっては実に有り難い一面も持ち合わせている）

その三男の玄が、大学を休学してワーキングホリディ制度を利用しカナダに向かうため、先月 16 日に待機していた八幡（実家）を出て、東京へ向かった。翌日の 17 日には成田より飛び立ち、今朝ほど無事にバンクーバーに到着した旨の連絡メッセージの送信あり、僕たち両親もやれやれ一安心！な心持ちではあった。（コロナ感染対策の為、暫くはホテル宿泊にて一定期間の外出留保中だった）

語学に強い関心を抱き、僕の故郷宮崎県の単科大学で学校推薦による公費留学も昨年度～今年度とも認められたが、コロナ禍という影響下にあり残念ながら受け入れ先のカナダの大学から単年度での受理が為されなかった。

しかしながら、彼が卒業した島根県にある全寮制の私立学校、キリスト教愛真高校の卒業生（彼とは世代がだいぶ上の先輩）の女性の方より、カナダでの障がい者施設（グループホーム）での就労が出来る若者を探しているとの募集のお話（チャレンジのお誘い）があり、渡りに舟とばかり勇気を出して手を上げて、同期の女性と二人、相手先法人に受理された。

ところが、またしてもコロナ対策やカナダ本国への移民難民保護の手続きを優先する、というカナダ入国管理局からの通知があり、下宿を引き払って八幡の実家（即ち僕ら両親の自宅）に戻って後、同期女性が先に入国受理されて渡航されたにも関わらず、いかんせん先の見えない待機期間（昨年九月から現在に至る）に突入する。コロナ収束の気配もなかなか不透明な状況下であり、半ばあきらめかけていた最中のビザ申請受理～カナダ入国許可、という本人にとっては待ちに待った嬉しい便り（メールによる通知）だったと思う。

実際、内心折れてしまいそうな、腐ってしまっても仕方のない状況下で、彼はよく淡々と日々を耐えたな、（オンラインで外国の方々との英会話による交流を続けたり、運動や図書館通いで準備をしながら気を紛らせていた…）と、親ながらそう感じている。

子育て時期は、誰しもそうであろうがいろいろあって、彼は（親も）一時期かなり辛い時期を過ごしたこともあり、決して裕福ではない我

が家ではあったが、家族で祈り、本人の気持ちも汲み取りながら、思い切って島根にある全寮制の私立高校へ送り出した。そこでの自分たちで野菜を育て、鶏を養いパンを焼き、当番制で朝食を作り、皆で話し合っ校則や共同体の決まりや課題、あるいは文化祭などの取り組みを円座になって話し合い、聖書を基礎に目に見えない天の声に聞き、山や海に触れ時にはゴミを拾い、歴史やいのちやヒトが自立（自律）することの意味をふだんから考える、そうした彼の高校時代の学びの機会が、彼を大きく変えていった。人との繋がりが豊かにされ、彼自身が自分のトラウマを解放して自分を愛することが出来るようになったことが大きかったな、と彼の小さな母校に僕ら両親も大変感謝している。

まあ息子を題材にするのは、たぶん本人に叱られるかもとも思いつつ、もう日本にはいないので、半年後には許してもらえらるだろうと思いつつ、

世界は今、かなり激変、流動している…

僕個人的な直感では、かなりダイナミックな国内外の政治的社会的な動きを、カナダでも、また日本でも今年これから目の当たりにするであろうと感じている。

しかしながら、彼の行く道、必ず天にいます主なる神が、見えざる領域の根源の光が、あなたの歩みを守り支えて下さるので、安心してお行きなさい、と言葉にして祝福の祈りを彼に伝え、妻が運転する車で空港に向かう彼を送り出し、僕はいつものように夜勤に向かった。

実り多き体験を得て、さらに一回り成長して半年後に帰国する彼に会える時を、楽しみに待ちたい、と思う。